（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を更に共有化していく為に　文章の見直しを検討している	従来の理念を見直し今年7月に新たな「基本理念」とスタッフの「心の態度・4ヶ条」が作られた。全職員に浸透させた後、順次、利用者や家族にも説明する予定である。家族からも利用者や家族に対する職員の対応の良さを評価する声もあり、法人の理念とともにホームの理念が実践されていることが窺える。職員は自分の言葉でホームの方針や支援時の姿勢を語ることが出来る。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや学生との交流が定期的にある	例年、地元の祭り・「青山さま」では神輿が各ユニットのテラスで気勢をあげ、「ぼんぼん」では女の子達が浴衣を着て訪問し利用者を喜ばせている。近くの中学校の生徒が花を届けたり、合唱の発表前の度胸試しに訪問し披露している。地域の高校の生徒も介護福祉士資格取得の実習や福祉体験学習で訪問し利用者と交流している。訪問調査当日、フラダンスグループが踊りと歌を披露し、途中、一緒に歌う利用者の声も聞こえてきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学などで立ち寄った方への相談、援助を行っている		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に外部評価を取り入れた事はない	家族代表、区長、民生委員、公民館長、地域包括支援センター職員等の参加を得て奇数月に開催している。会議では事業所の利用状況や活動を報告し、参加者との意見交換をしたり、情報等を得ている。防災に関した助言がサービスや運営に活かされる等、有意義な会議となっている。町会の方との交流会、利用者家族との交流会もこの会議の中で行い、多くの人から率直な意見・要望が得られるように工夫している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で行われている 市の相談員の皆さんとの交流も大切に考えている	運営推進会議に市の担当者が出席しているので気軽に相談できる。介護認定の更新申請は家族の依頼により代行している。認定訪問調査はホームで行われているが家族が同席することもある。市派遣の介護相談員2名が毎月来訪しており、利用者と話した後、帰り際に状況報告を受け、課題等をホームとして検討している。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「止むを得ない場合」以外は取組めている	利用者が安心し、自由に、気分良く暮せる環境づくりのため身体拘束をしないケアを実践している。利用者の行動に対しその場しのぎの嘘でごまかすこと、職員側の都合で利用者の行動を停めたり否定するような声がけはしないこと等、ケアの基本に沿い支援している。本人自らの転落不安や布団の落下防止等の理由で夜間のみベッドの両側を壁と2本柵で囲むなどの場合には本人や家族に説明し同意を得た上で対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法律そのものについての周知は出来ていない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては学ぶ機会を作れていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実際に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を利用してその機会を作っている	自分の意向や意見を言葉で表せる方は三分の一ほどおり、他の方は表情や仕草を見て声がけし意思確認をしている。利用者の好きなことや嫌いなことを把握し、意見・要望を出し易いようにしている。家族会はないがホームの大きな行事（りんご祭り・夏祭り・敬老会等）を家族交流の場として活用している。多くの家族が利用者や家族への対応、事業所の運営方針及び雰囲気、健康管理等に満足している。家族は来訪時に意見・要望等を口頭で伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を行っている	毎月の定例会は各ユニット毎で行われており、利用者の生活支援などについてより具体的に話し合うことが出来、個別の支援方法や注意点など皆で決め実行に移している。会議には運営者も出席し助言や指導をしている。各ユニットの職員の異動はなく固定している。運営者、ホーム長はホームに常にいるので職員は何時でも話したり相談することが出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限りの努力はしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を示したり参加手続きをしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の交流する機会はほとんど無い		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族により個別性はあるが行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念として努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全ての家族には難しい事もあるが努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初期のアセスメントに取り入れている	親族の訪問を受ける利用者やお盆やお正月に自宅に帰る利用者、馴染みの美容院へ家族と出かける利用者がいる。携帯電話を持つ利用者には家族等からかかってきたり本人からかけることもある。開設時からの利用者には近所の方や友人の面会が続いていたが来訪する方々も年々高齢となり利用当初に比べ減りつつあるという。利用後、顔馴染みとなったボランティアや子供達、町会住民等との新たな交流も始まっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的な働きかけはしていない		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに取り入れている	一人ひとりに接しながら職員は利用者の話から思いや意向、希望を受け止めている。得られた情報は記録に残し共有している。利用開始時の利用者からの希望・要望調査書もあり、センター方式のシートも活用し、利用者一人ひとりの生活を支えるための情報収集が行われ、思いや暮らしの把握に熱心に取り組んでいる。家族の意向もあるが毎日大学ノートに日記を書いている利用者もおり、一人ひとりのしたいことを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに取り入れている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントに取り入れている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに関して職員の理解度が低い	職員3名が一組となり、一人ひとりが利用者1名を担当しており自分の担当以外の利用者をサブとして受け持ちチームとして支援している。毎日、日勤者が個別のケアプランチェック表に実施状況や利用者の様子等（モニタリング）を記録しているので毎月遂行状況が確認できている。変化や気づきなどがあれば赤線を引いたり○で囲み、書き込みをしている。状況に変化があれば新たなものに作り変えたり、一部修正し現状に即したものにしている。見直しは6ヶ月単位で行われている。介護計画内容を利用者本人に説明し確認のサインをもらい、家族にも来訪時に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員ごとに差がある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム長が日々教育をしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源はあまり生かされてはいない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている	利用者や家族の意向によりかかりつけ医を協力医に変更する場合が多い。協力医とは24時間365日連絡・相談が可能であり、利用者に状態変化が生じた場合には適切な医療が受けられるように体制が講じられている。協力歯科医院が必要に応じ往診している。受診や通院の付き添いは家族にお願いしているが状況により職員が代行することもある。今年2月に訪問看護ステーションと契約し、月4回の訪問があり、利用者の健康チェックや相談に乗っていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護を利用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から話し合いを持ちターミナル期支援に取り組んでいる	重度化や終末期については利用者家族の意向に沿い支援している。今年3月、8月に協力医及び訪問看護師と連携し事業所での看取り支援が行われた。急変し医療機関で最期を迎えた方（仲間）のお見送りに「会いに行きたい」と望まれた利用者が職員と共にご自宅に出向いている。利用者の中には「まだ死にたくないな～」と言われる方もいるが、職員は家族同様に過ごしてきた利用者が望めば、安らかに、自然に最期が迎えられるように支援したいと心の準備も怠りない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的な訓練を行っている	年2回消防署の協力を得ながら通報、避難誘導、初期消火等の訓練が行われている。昨秋には夜間想定訓練も実施している。有事の際には近所の方や隣接入浴施設職員の協力が得られるようになっている。スプリンクラー、自動火災報知機、誘導灯等防災設備も整っている。ホームがある地区では現在、消防団結成に向けた動きがあり、その暁には協力要請する予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の振り返りを大切にしている	利用者を人生の先輩として尊敬の気持ちで日々、関わっている。好ましくない言動があればその場で注意を促したり、定例会議で事例を話し、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保の周知・徹底に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員により差がある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	優先される事が職員側になってしまう事がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「その人らしさ」に関して職員により理解度が違う		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けの部分は出来ていない	利用者は出来る範囲で調理の下ごしらえ、下膳などを行っている。献立はホーム長が中心になって作成している。行事係を1ヵ月交代で職員が担当し、行事の際に特別メニューが献立に組み込まれている。ホームの庭先の畑で運営者の家族が夏野菜を作り、「食べて欲しい」と届けられており、新鮮な野菜が調理され利用者に提供されている。利用者に合った食形態（キザミやトロミ）が用意されている。食事中は利用者と職員が料理の出来栄えを話すなど和やかな雰囲気に包まれていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	この時期は特に水分摂取に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている 地域の歯科医師との連係もある		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についての理解度が職員によって違う	三分の一の方はほぼ自立している。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、利用者の表情や仕草から時間に関係なくトイレ誘導している。日中はトイレでの排泄支援に力を入れおり、夜間にポータブルトイレを使う方もいる。トイレは車椅子利用者も利用可能であるが部分的に不具合を感じることもあり、直したいという意向がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を決めずに行うには無理がある	週2回以上の入浴を基本としている。入浴時間帯は概ね決まっているが利用者に声を掛けながら希望する順番で入れるよう配慮している。季節に合わせ、菖蒲湯、柚子湯を楽しんでいただいている。重度化等で職員2人での介助が必要な利用者もいるがゆっくりと入浴できるよう支援している。シャワーチェアなども用意されており、一人ひとりに合わせた入浴方法が取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充分とは言えないが行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会は少ない	ユニット毎での外出が多いが合同でも出かけている。お花見、ぶどう狩り、リンゴ狩り、ラーメン屋、回転寿司、パン屋などへ車椅子の利用者も一緒に出掛けている。日常的にはテラスでお茶会をしたり、時には夜、花火大会をし気分転換している。隣接入浴施設の喫茶店に出かけ、お茶を楽しむこともある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している利用者はいるが使う場面は少ない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の様子を見ながら検討している	玄関を入ると各ユニットの入口が左右にある。食堂兼リビングがワンフロアとなっておりテラスにも続いている。人工のアゲハチョウが花の周りを飛び回っていた。グラジオラスやアスターなど、季節の花が飾られ、壁には利用者の貼り絵（花火とヒマワリ）も掲げられている。昼食後、テレビを見たり、食堂で職員とおしゃべりしたり、大運動会のポスターを作成したりと、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになるのは難しい		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に相談をしている	各居室は床暖房、エアコンが設置されている。どの居室も整理整頓され清潔感がある。数名の利用者の居室入口には利用者の状態に合わせ表札替わりの名札を下げ識別し易いようにしている。タンスの上の写真立てにご主人の写真を入れ、更にその写真を大きく引き伸ばして壁にも貼ってある居室も見られ、一人ひとりが自宅から持ってきた沢山の洋服や家具に囲まれて気持ちよく、安心しながら暮せるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	定期的な会議で話し合われている		